

令和3年度 平野区運営方針

(区長:武市佳代)

◆計画

区の目標（何をめざすのか）
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち『ひらの』をめざす。 ・ 誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち『ひらの』をめざす。 ・ こどもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまち『ひらの』をめざす。

区の使命（どのような役割を担うのか）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災、防犯などの地域課題の解決に向けて、様々な主体が協働し、積極的に関わることができるよう支援する。 ・ 互いの人権を尊重し、地域ぐるみで支えあい、健やかにいきいきと、平野に愛着を持って暮らせるまちの実現をめざす取組を進める。

令和3年度 区運営の基本的な考え方（区長の方針）
<p>[平野区区政会議のご意見を踏まえた基本的な考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自助・共助がいかに大切かを呼びかけながら、大規模災害や新型コロナウイルス等の感染症に備え、防災力の強化を図る取組を、喫緊の課題としてさらに進めていく。 ・ コロナ禍で支援を要する方々がさらに増加すると見込まれるなか、地域で孤立することがないよう、「発見」「見守り」「支える」ための取組を一層充実させていく。 ・ こどもたちの健やかな育みを支えるため、基礎学力の向上、読書習慣及び家庭学習・生活習慣の定着に向け、今後ともこどもたちが「生きる力」を身につけ、自立した大人になれるよう、小学校就学前から高校卒業まで切れ目のない施策を進めていく。 ・ 孤立した家庭環境や保護者が抱える不安の中で、児童虐待が深刻化しており、虐待を未然に防ぎ、深刻化させないための対策をより一層強化していく。 <p>⇒ 関係機関と連携し、社会のあらゆる資源を活用しながら、世代の枠を超え、喜びや楽しさ、安心を分かちあえる関係を築く「多世代交流」を一層推進し、区における様々な課題の解決につなげる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により社会的活動に制約が生じている今、これまで以上に人とのつながりは重要性を増している。</p> <p>そこで、従来の活動や交流も大切にしつつ、「新しい生活様式」も前向きに取り入れながら、広報紙をはじめHPやSNSなど多様なツールで地域や区役所の取組事例等を積極的に発信し、顔の見える関係を構築することで、住民同士がふれあい、支えあう、暮らしやすいまち『ひらの』をめざした取組を進める。</p>

重点的に取り組む主な経営課題（様式2）	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題1】 地域に応じた安全・安心のまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域防災力の向上 ○ 地域防犯力の向上 ○ 地域活動力の向上 ○ 地域魅力の向上
<p>主な具体的取組（3年度予算額）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域防災力の向上【3年度予算額：8,260千円】 地域防災力向上に向けた支援（防災訓練・情報伝達訓練の実施支援など） ○ 地域防犯力の向上【3年度予算額：10,201千円】 地域防犯力向上に向けた支援（防犯や交通安全のための啓発やパトロールなど） ○ 地域活動力の向上【3年度予算額：78,176千円】 地域活動力向上に向けた支援（地域活動協議会の自律的・継続的な活動の支援） ○ 地域魅力の向上【3年度予算額：16,407千円】 まちの魅力の向上に向けた未利用地の有効活用（未利用地の有効活用の方向性の整理） 	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題2】 すべての人と人がつながり支えあえる福祉のまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域福祉力の向上
<p>主な具体的取組（3年度予算額）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域福祉力の向上【3年度予算額：48,172千円】 各地域の特性に応じた地域福祉支援体制の充実（地域福祉のネットワークづくりを行い、区社会福祉協議会や関係機関と連携しつつ、地域の見守りなどの地域支援体制の充実を図る） 地域における支えあい活動への支援（地域福祉の担い手の確保や取組支援、支援が必要な方への理解促進など） 	

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題3】 こどもが元気で育つまちづくり	○ こどもの生きる力の向上
主な具体的取組（3年度予算額）	
○ こどもの生きる力の向上【3年度予算額：59,067千円】 児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援 （児童虐待の対策として「重大虐待ゼロ」をめざした支援体制の強化、子育てにおける親の孤立化の抑止と子育てしやすい環境づくりなど） こどもの学習意欲の向上 （区内市立小学校への学力サポーターの派遣や小・中学生の読書習慣の定着など） こどもたちへのサポートや学校生活の定着支援 （こどもサポートネットの効果的な実施、高校生活の定着・卒業後の自立に向けた支援など）	

「市政改革プラン3.0」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
—	—
主な取組項目	取組内容
—	—
主な取組項目	取組内容
—	—

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【地域に応じた安全・安心のまちづくり】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

- ・誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち『ひらの』をめざす。
- ・災害や犯罪から自分たちの身を自分たちで守ることができるよう、安全で安心できる平野区をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【地域防災力の向上】これまでの経過と今後の予定

- H26年4月1日 災害対策基本法
- H27年2月1日 大阪市防災・減災条例
- H28年3月末まで 地域別防災計画の策定
- H28年3月～30年3月 各地域別の防災計画を活用した取組支援
- H28年9月～30年3月 避難所開設に関するワークショップおよび避難所開設訓練の支援
- H30年4月～R3年3月 避難所開設に関するワークショップおよび避難所開設訓練の支援(継続)
- R1年7月 「平野区防災の備え」の作成
- R2年9月 平野区地域防災リーダー設置要綱改正

- ・大規模災害時には、日頃からの自助・共助・公助の相互連携が不可欠であることが証明されており、これにより災害に強いまちづくりをめざす。
- ・地域の特性に応じ策定した地域別防災計画や「平野区防災の備え」を活用しながら、災害時の初動期に自助・共助で命を守る取組を推進し、さらに災害種別に応じた避難所の開設運営を地域が主体で行えるよう支援していく。
- ・平野区赤十字奉仕団が中心となって各地域の自主防災の組織化を進めており、地域と連携しながら、地域防災リーダーを中心に主体的な取組ができるよう支援していく。

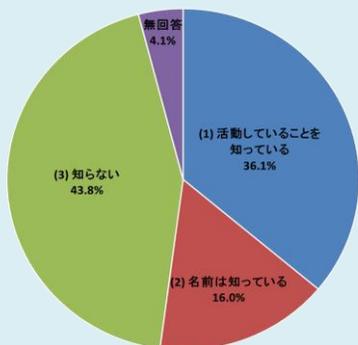
【地域防犯力の向上】平野区の街頭における主な犯罪発生件数



出典：大阪府警犯罪統計資料

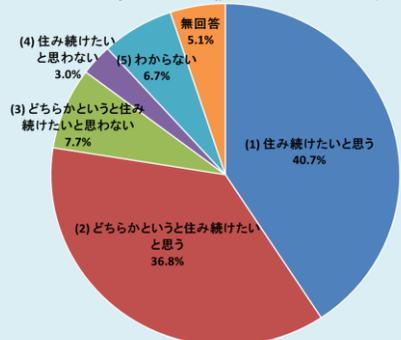
【地域活動力の向上】令和2年度区民モニターアンケート結果

【「地域活動協議会」のことは知っていますか？】



【地域魅力の向上】令和2年度区民モニターアンケート結果

【これからも平野区に住み続けたいと思いますか？】



・区内の未利用地総面積 206,302㎡（市営住宅建替跡地やもと施設など）

	<p>要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）</p> <p>【地域防災力の向上】 近年、国内各地で甚大な被害を及ぼす自然災害が多発しており、平野区でも、東南海地震のほか、大和川などの河川氾濫にも備える必要がある。こうした災害に備えて、「自助」「共助」の果たすべき役割は非常に大きく、住民による普段からの備えが必要である。令和元年度には、地域（平野区日本赤十字奉仕団）と連携し、「平野区防災の備え」を作成・配布してきた。また、近年、精度が向上しているハザードマップの周知にも、努めてきたところである。また、新型コロナウイルス等の感染症にも備える必要があり、避難所運営などの際には、こうした対策も講じる必要がある。今後、日常的な備えの重要性の周知や、ハザードマップ等の確認、また、地域の自主防災組織の中核を担う地域防災リーダーを中心とした訓練など、感染症も考慮し、地域と連携して取組を進める。</p> <p>【地域防犯力の向上】 平野区の街頭における主な犯罪発生件数は年々減少傾向にあるが、自転車盗の占める割合が依然として高い。また、特殊詐欺について、オレオレ詐欺だけでなく還付金詐欺や架空料金請求詐欺など近年手口が多様化している。</p> <p>【地域活動力の向上】 地域住民（区民）が地域活動など身近なつながりが重要と感じている方は約9割である。地域活動協議会及びその取組について、認知度が上昇傾向にある。しかしながら、意義や機能の理解促進が十分でない。 地域活動協議会の実情に応じた支援を行っているが、未だに会計支援を求められている。また、地域活動の担い手不足が課題となっている地域が多い。</p> <p>【地域魅力の向上】 区内には非常に多くの未利用地がある。</p>
	<p>課題（上記要因を解消するために必要なこと）</p> <p>【地域防災力の向上】 災害時の初期初動を担う地域の防災力を高めるために、その基盤となる地域でのつながりを深める必要がある。また、地域防災リーダーの育成を進める必要がある。さらに地域と連携強化のためにも、災害対策本部機能の強化も必要となる。</p> <p>【地域防犯力の向上】 平野区における主な犯罪発生件数のさらなる減少に向け、地域や区民との協働を基本とした防犯対策を推進する必要がある。</p> <p>【地域活動力の向上】 より効果的な支援の実施に向けて必要な見直しを行い、自律運営ができるよう地域の実情に即した最適な支援を行うとともに、住民が地域事業に参加できるよう広報紙等で情報発信を強化する必要がある。また、地域活動協議会の意義や機能の理解が深まるよう、積極的な働きかけや情報発信を行う必要がある。</p> <p>【地域魅力の向上】 未利用地の有効活用を行うなど、愛着を持って住み続けられる魅力あるまちづくりを推進する必要がある。</p>
自己評価	<p>戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括</p>

めざす成果及び戦略1

【地域に応じた安全・安心のまちづくり】

めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）		
計画	<p>【地域防災力の向上】 防災リーダーが中心となり、自主防災組織による主体的な取組を実施することにより、防災意識の普及啓発に努め、地域住民が防災に高い関心を持っている状態</p> <p>【地域防犯力の向上】 地域との協働や警察との連携によって、より安全で安心なまちづくりを推進している状態</p> <p>【地域活動力の向上】 ・さまざまな人が地域活動に参加し、地域団体間での連携・協働が行われ、地域と行政が協働しながら地域課題の解決に取り組んでいる状態 ・防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態</p> <p>【地域魅力の向上】 区民ニーズ等を踏まえた未利用地の有効活用の方向性に基づき、まちの魅力の向上に取り組んでいる状態</p>	<p>【地域防災力の向上】 ○自助体制の確立 ・平野区防災計画、地域別防災計画の周知 ○共助体制の確立 ・自主防災組織の主体的な防災訓練等の実施</p> <p>【地域防犯力の向上】 ・地域全体で犯罪を発生させないような環境づくりの推進</p> <p>【地域活動力の向上】 ・地域活動協議会がこれまで活動に参加していなかった層への活動周知・参加促進をするための支援 ・地域活動協議会において、地域団体間の連携・協働し主体的に地域課題の解決に取り組める体制支援 ・地域活動協議会のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。</p> <p>【地域魅力の向上】 ・区民ニーズ等を踏まえた未利用地の有効活用の方向性を整理</p>		
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	<p>【地域防災力の向上】 ・防災意識が高まったと感じる区民の割合：区民モニターアンケートで令和4年度末までに80%以上</p> <p>【地域防犯力の向上】 ・地域防犯力向上の大切さを感じる区民の割合：区民モニターアンケートで令和4年度末までに80%以上</p> <p>【地域活動力の向上】 ・地域活動協議会を知っている区民のうち活動に参加したことがある及びしようと思っている割合：区民モニターアンケートで令和4年度末までに70%以上 ・地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：構成団体へのアンケートで令和5年度末までに90%以上</p> <p>【地域魅力の向上】 ・平野区に住み続けたいと思う、どちらかといえば住み続けたいと思う区民の割合：区民モニターアンケートで令和5年度末までに80%以上</p>			

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-1

【地域防災力向上に向けた支援】

		元決算額	3,060千円	2 予算額	8,326千円	3 予算額	8,260千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助の強化のため、地域(平野区赤十字奉仕団)と連携し、防災リーダーを中心とした防災訓練・情報伝達訓練の実施を支援する。全22地域 ・地域住民にハザードマップを周知し、災害時の避難行動等の認識を高め、防災意識の向上を図る。全22地域 ・災害発生時に地域住民等による円滑な初期初動活動が実施できるよう、地域、学校、区役所(避難所主任)が一体となった避難所訓練を実施する。 ・区災害対策本部運用の最適化を図るため、停電発生時の非常用電源を確保する。 	防災の取組を通じて自助・共助の大切さを感じる区民の割合: 区民モニターアンケートで60%以上 【撤退・再構築基準】 上記の目標が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 令和2年度実績 防災の取組を通じて自助・共助の大切さを感じる区民の割合: 89.2% ・小中学校で実施する防災の取組 全9回 ・地域等での防災訓練 全12回 ・災害時図上訓練 全2回 ・コロナ禍における避難所開設訓練 全2回 ・平野区役所全職員防災研修 全5回 222名参加 令和元年度実績 小中学校で実施する防災の取組 全13回 地域での防災訓練(家具転倒防止対策講座含む) 全16回 平野区役所全職員防災講習会 6/8(土)実施 275名参加					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 1-2

【地域防犯力向上に向けた支援】

		元決算額	7,392千円	2 予算額	10,576千円	3 予算額	10,201千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署や地域安全パトロール隊と連携・協働し、防犯や交通安全のための啓発やパトロールを行う。特に、自転車盗については、鍵かけや防犯登録の推奨といった「自己防衛の啓発ポスター」だけでなく、犯罪を抑制するための「罰則を明記した警告ポスター」も活用し、より効果的に犯罪件数の減少をめざす。 また、各地域の危険個所が表示されたマップの作成を支援し、見守り活動に活用することで、地域における犯罪件数の抑制を図る。 ・特殊詐欺について、各関係機関と連携し、被害発生抑制を図る。 	防犯啓発やパトロールが犯罪発生抑制に効果があると答えた区民の割合: 区民モニターアンケートで80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 令和2年度実績 防犯の取組を通じて地域防犯力向上の大切さを感じる区民の割合: 57.1% 防犯キャンペーン 見守り活動・パトロール等 令和元年度実績 学校園への交通安全指導 交通安全パトロール 防犯関係キャンペーン 出前講座					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組1-3

【地域活動力向上に向けた支援】

元決算額 71,752千円 2 予算額 80,596千円 3 予算額 78,176千円

計画	当年度取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・地域による主体的なコミュニティ活動を行う地域活動協議会へ活動に対する財政的支援や中間支援組織を活用した自律的な地域運営への支援を行うことで、多世代が交流できる取組や住民間のつながりの促進を図る。 また、地域が特に負担に感じている会計処理について、中間支援組織を活用して支援することでさらなる自立を促す。 ・多世代の方が地域の情報を得ることができるよう、地域活動協議会をはじめとした地域における活動・イベントなどを、区の広報紙やホームページ等、紙媒体・電子媒体を効果的に活用して広報するとともに、自ら地域活動協議会が広報活動を行えるように、中間支援組織とともに支援する。 ・子育て世代と高齢者をマッチングできるような取組を検討する。	地域活動協議会を知っている区民のうち活動内容を知っている区民の割合：区民モニターアンケートで40%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%未満の場合は支援手法を再構築する。
		前年度までの実績
		令和2年度実績 地域活動協議会を知っている割合：52.1% ・地域活動協議会補助金 22地域交付 ・地域活動協議会の広報状況 広報紙9地域、ホームページ9地域、ブログ10地域、Facebook4地域、インスタグラム10地域 令和元年度実績 地域活動協議会を知っている割合：60.0% ・地域活動協議会補助金 22地域交付 ・地域活動協議会の広報状況 広報紙10地域、ホームページ9地域、ブログ10地域、Facebook4地域、インスタグラム10地域

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組1-4

【まちの魅力の向上に向けた未利用地の有効活用】

元決算額 21,509千円 2 予算額 17,395千円 3 予算額 16,407千円

計画	当年度取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・区政会議などの場において区民ニーズを把握し、未利用地の有効活用の方向性の整理に取り組む。 ・未利用地を活用した事業に取り組む。	区政会議などの場において区民ニーズを把握する機会3回以上 【撤退基準・再構築基準】 上記目標を下回る場合、手法を再検討する。
		前年度までの実績
		令和2年度実績 区政会議などの開催 4回 令和元年度実績 区政会議の開催 4回

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定(未測定)

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【すべての人と人がつながり支えあえる福祉のまちづくり】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

平野区地域福祉計画でめざしている、支える人も支えられる人もお互いを支えあい、見守りあえる平野区。

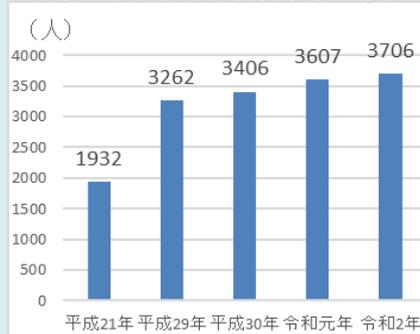
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

平野区 高齢者数の推移



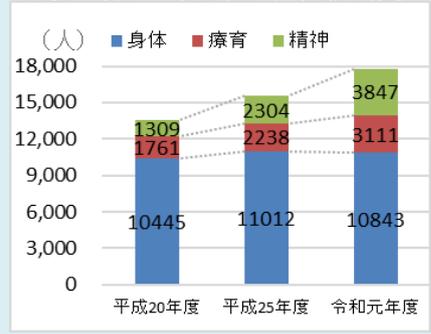
出典：国勢調査

平野区 在宅認知症高齢者数の推移



※要介護認定調査結果を基に推計
(数値は各年の4月1日時点)

平野区 障がい者手帳所持者数の推移



出典：福祉局統計資料

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【地域福祉力の向上】

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築にあたって、当区においても種々の取組を進めてきているが、今後はより一層、地域における福祉的課題は複雑化していくことが見込まれる。特に、平野区では高齢者や障がい者など支援を要する区民が多く、今後さらに増加が見込まれる。また、可能な限り、誰もが住んでいる地域で住民同士お互いに支えあいながら暮らし続けることができるよう、多様な職種間の連携によるネットワークづくりが必要である。

- 後期高齢者数：約2.6倍（平成12年⇒平成27年）
- 在宅認知症高齢者数：約1.9倍（平成21年⇒令和2年）
- 障がい者手帳所持者数：約1.3倍（平成20年度⇒令和元年度）
- ⇒増加傾向が今後も続くと思込まれる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【地域福祉力の向上】

- ・支援が必要な方への正しい理解の促進を図りつつ、早期発見や早期支援へつなげていく必要がある。支援が必要な方を「発見」「見守り」「支える」ための地域特性に応じた支援体制が必要である。
- ・健康寿命の延伸を図るため、寝たきりにならないようにするための運動習慣や、認知症の発症を予防（遅延）する取組を区民に広げる必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略2

【すべての人と人がつながり支えあえる福祉のまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	【地域福祉力の向上】 地域の実情に応じた地域支援体制が有効に機能しつつ、認知症や障がいがある人などのさまざまな状況に対する理解を深めながら、区民が、つながり支えあい、住んでいる地域で健やかでいきいきと暮らしている状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 【地域福祉力の向上】 子育てや家事・介護、仕事のことなど生活の困りごとや悩みがあるとき、相談できる区民の割合：区民モニターアンケートで令和3年度末までに60%以上	【地域福祉力の向上】 地域での福祉活動を中心的に担う「地域福祉活動コーディネーター」が地域の福祉活動の担い手とともに、各地域において専門支援機関等との連携を図りながら見守りや相談ができる体制を機能させることで、地域福祉力を向上させる。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない		
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組2-1

【各地域の実情に応じた地域福祉支援体制の充実】

元決算額 47,075千円 2 予算額 48,200千円 3 予算額 47,522千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	地域福祉のネットワークづくりを行い、引き続き、地域福祉活動の中核を担う地域福祉活動コーディネーターの育成と地域での見守りに関するノウハウを蓄積するため、行政と地域をつなぐ区社会福祉協議会や関係機関と連携しつつ、地域の見守りなどの地域支援体制の充実を図る。 ・各地域の課題抽出や分析を行い地域の福祉活動への支援など 5事例 ・つながりづくりや支えあい活動の好事例について、区社協と連携しつつ情報発信を行う。	お住まいの地域で、緩やかな見守りや相談活動が行われていると感じる区民の割合：地域の方々が集まる場等でアンケートを実施し、75%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する。 前年度までの実績 令和2年度実績 ・お住まいの地域で、緩やかな見守りや相談活動が行われていると感じる割合 84.5% 令和元年度実績 ・お住まいの地域で、緩やかな見守りや相談活動が行われていると感じる割合 87.6% ・各地域の課題抽出や分析を行い地域の福祉活動への支援 5地域 ・区民にとって暮らしやすい平野区をめざすため、お互いがつながり支えあうしくみについて検討する場として「平野区の地域福祉を考えるラウンドテーブル」2回

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）

元決算額	504千円	2予算額	635千円	3予算額	650千円
------	-------	------	-------	------	-------

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>区民自らが主体的に取り組むことができるよう、地域福祉の担い手の確保や取組支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いきいき脳活サポートマニュアル」を活用した取組を、関係機関と連携し、地域等において実施できるよう支援 52か所 「いきいき脳活」(認知症予防推進事業)検討会において、引き続き「いきいき脳活サポートマニュアル」の地域でより実施しやすい効果的な活用方法について検討 「いきいき百歳体操」において、活動の担い手となるサポーターの養成と養成後のサポーター支援のための事業の継続 関係機関等と連携し、地域住民などを対象とした講演会等の実施 2回 障がいのある方や認知症の方などとその家族の気持ちに寄り添い、すべての人たちが住んでいる地域で暮らし続けることができるよう、周囲の理解促進のための取組の継続 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>①認知症予防啓発の取組において、参加者評価アンケートで自ら取組に参加したいと感じた参加者の割合70%以上</p> <p>②地域住民などを対象とした研修会等の受講者評価シートにおいて、認知症や発達障がいなど、地域において生きづらさを感じている方がいることなど、何らかの気づきがあったと感じた割合80%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>①上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する。</p> <p>②上記目標が60%未満であれば、手法を再検討する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>令和2年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症についての情報を得て自ら認知症予防などの取組に参加したいと感じた区民の割合:75% 認知症や発達障がいなど、地域において生きづらさを感じている方がいることなど、何らかの気づきがあったと感じた割合 84% 地域等における「いきいき脳活サポートマニュアル」を用いた取組を行っているグループ 52か所 いきいき脳活検討会を5回開催し、認知症予防を推進する取組方法を検討 いきいき脳活研修会を3回開催 地域関係団体と連携した区民向け講演会を1回(2部制)開催 「いきいき百歳体操」継続箇所数 45か所 すべての人たちが住んでいる地域でその人らしく暮らし続けることができるよう理解を促進する講演会 0回(感染症対策のため講演会は中止し、区ホームページにより講演会資料を広報) <p>令和元年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症についての情報を得て、自ら認知症予防等の取組に参加したいと感じた区民の割合(感染症対策のため事業中止) 地域等における「いきいき脳活サポートマニュアル」を用いた取組を行っているグループ 50か所 いきいき脳活検討会を5回開催し認知症予防を推進する取組方法を検討 地域関係団体と連携した講演会 専門職向け2回、区民向け0回(感染症対策のため中止) 「いきいき百歳体操」継続箇所数43か所 住民講演会の参加者アンケートにおいて、発達障がいなど、地域において生きづらさを感じている方がいることなど、何らかの気づきがあったと感じた割合 81.9%
----	--	---

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>一:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【こどもが元気で育つまちづくり】

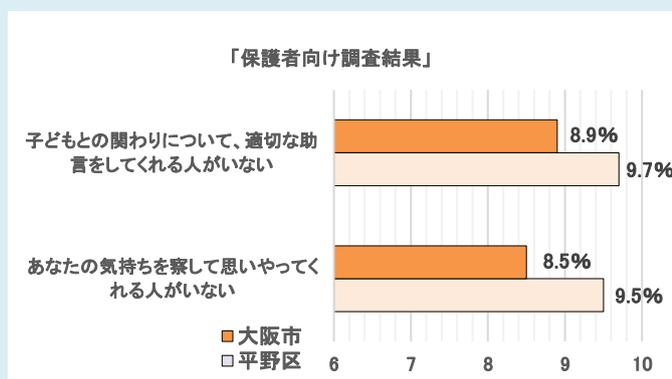
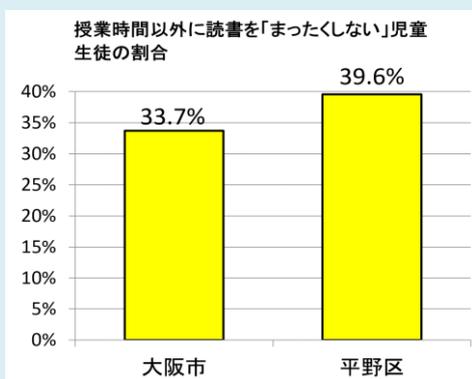
【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

区民の方に住んでよかったと実感していただけるよう、こどもを元気にする平野区をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



出典：子どもの生活に関する実態調査(平成28年度)

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【こどもの生きる力の向上】

- ・大阪市全体で「重大虐待ゼロ」に向けた取組を進める中、平野区では非常に多くの要保護児童（虐待リスクのある児童）が登録されている。
- ・子どもの生活に関する実態調査(平成28年度)では、平野区のこどもを取り巻く生活状況が明らかになるなかで、経済面や学習習慣の定着、こどもの社会性・自立性の点において様々な課題が明らかになった。
- 経済的な理由により食費を切り詰めたことのある世帯43%(本市比率より+5%) 経済的な理由でこどもを習い事に通わせることができなかった小中学生の保護者15%(本市比率より+3%) 授業時間以外に読書をまったくしない小中学生40%(本市平均より+6%) 1日あたり勉強を全くしない小中学生14%(本市比率より+4%) 自分に自信がない小中学生53%(本市比率より+3%)
- ・全国的に問題となっている高校中退の問題について、区内の府立高校との意見交換会においても深刻な状況が報告されている。また、その背景には、生活困窮など、複合的な家庭問題を抱えている事例が多い。高校卒業と就職に向けた、「将来への安定した自立」をめざし、こどもの生活基盤の整備をすることが課題である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【こどもの生きる力の向上】

- ・「重大虐待ゼロ」をめざし児童虐待対策を実施するにあたり、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点から体制を充実させる必要がある。
- ・こどもたちが経済的な理由や家庭環境に左右されることなく、住み慣れた地域(おおむね小学校区)で健やかに育まれるために、こどもの居場所や世代を超えたつながりづくりの運営をサポートし、こどもの「生きる力」と平野区全体でこどもを育む地域・家庭の教育力の向上をめざしていく必要がある。
- ・家庭の養育力の低下や貧困などの生活における困窮度の高い子育て世帯において、複合的な課題があることから、関係機関などと連携しつつ、子育て支援施策を充実していく必要がある。
- ・こどもたちに生きる力につながる学習習慣の定着を通じて豊かな人間性をしっかりと身につけてもらえるよう、総合的なこどもたちの学びを支援する必要がある。
- ・生活困窮など、さまざまな理由により不登校に陥るおそれのある高校生に対して、高校生活の定着に向けて支援し、生きる力につなげていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略3

【こどもが元気で育つまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）		
	【こどもの生きる力の向上】 ・こどもが「生きる力」を身につけ、自尊感情を持って自ら大人や友達と関わりを持ち育つことができる状態 ・すべてのこどもが適切な環境で養育される状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 【こどもの生きる力の向上】 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的な回答が平野区で令和5年度末までに76%以上 ・こどもサポートネット支援対象者件数 令和4年度末までに300件以上		【こどもの生きる力の向上】 ・こどもが「生きる力」を身につけることができるよう、こどもたち一人ひとりに対するきめ細やかな支援 ・こどもの学校生活や学習習慣に対する顕彰の取組 ・こどもの養育環境の向上へ向けた、こども及び保護者への支援		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
	A: 順調 B: 順調でない				
戦略の進捗状況		a: 順調 b: 順調でない			
今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須					

具体的取組3-1

【児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援】

		元決算額	936千円	2予算額	18,863千円	3予算額	20,843千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	大きな社会問題となっている児童虐待の対策として、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点を中心に「重大虐待ゼロ」をめざし、「ももいろ子育てねっと・ひらの」を継続して運用し、支援体制の強化を図る。特に今年度は、子育て支援関係者のスキルアップをめざした講演会および保護者やこどもが楽しめる親子向けコンサートを開催する。 また、区役所(子育て支援室)と地域及び学校との連携をより密にすることで、「要保護児童対策地域協議会」の機能強化を図る。 さらには、楽しく子育てできるような情報発信を幅広く行い、子育ての不安や悩みのある方が相談しやすい機会を増やす。		子育てについて必要な情報を入手できていると感じる、子育て世代の保護者の割合：区民アンケート(子育て世帯向け)で60%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が40%未満であれば、事業を再構築する。				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性		A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組3-2

【こどもの学習意欲の向上】

元決算額 5,525千円 2 予算額 6,960千円 3 予算額 7,080千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<ul style="list-style-type: none"> 読書ノートを区内小中学生及び就学前児童(3~5歳)に配付し、読書習慣の定着を図るとともに、目標を達成した児童生徒に区長表彰を行う。 あいさつや清掃、ボランティア活動等、さまざまな分野において、がんばる小・中学生について区長表彰を行う。 平野区の市立小学校に就学する児童を対象に、国語・算数をはじめとした学習支援を行い、学習習慣の定着、豊かな人間性を育むなど、こどもたちに「生きる力」を身につけてもらえるよう支援する。(全22小学校、こどもの居場所等) 		<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「読書は好きですか」の肯定的な回答が平野区で70%以上 <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する</p> <p>前年度までの実績</p> <p>令和2年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ノートを区内小中学生及び就学前(3~5歳)の児童に配付 区内市立小学校での学習支援 ①児童の読書習慣が以前より、定着してきたと感じる小学校の割合 95% ②アンケートで参加児童のうち「以前より学ぶことが楽しい」と感じる児童の割合 93% <p>令和元年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ノートを区内小中学生及び就学前(3~5歳)の児童に配付 区内市立小学校での学習支援 ①児童の読書習慣が以前より、定着してきたと感じる小学校の割合 100% ②アンケートで参加児童のうち「以前より学ぶことが楽しい」と感じる児童の割合 79.6%
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組3-3

【子どもたちへのサポートや学校生活の定着支援】

		元決算額	25,828千円	2 予算額	31,215千円	3 予算額	31,144千円
計画	当年度の取組内容	<p>・学校における教育分野の支援と区役所における保健福祉分野の支援を連携し、子どもと子育て世帯が抱える課題に対して総合的な支援を行う仕組み(子どもサポートネット)を効果的に実施する。</p> <p>・生活困窮など、さまざまな理由で不登校に陥るおそれのある概ね15～18歳の高校生が卒業をめざせるよう、また、卒業後の就労・社会生活について長期的に安定した将来設計ができるようにするために、家庭訪問等を中心とした個別支援を行う。</p> <p>・対象生徒やその家族の抱える課題を早期に把握し、高校生活の定着や卒業後の自立に向けた生活を支援するため、教育・福祉などの関係機関とのネットワークづくりを通じた支援できる仕組みをつくる。 相談件数 15件以上</p>					
	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	<p>①子どもサポートネット支援対象者件数 300件以上 ②個別支援を行った者のうち、進級・卒業・転学・単位取得などにおいて前向きな変化が見られた者の割合 70%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 ①上記件数の50%未満であった場合、実施手法の見直しを行う。 ②上記割合が30%未満であった場合、事業の見直しを行う。</p> <p>前年度までの実績 令和2年度実績(令和3年2月末時点) ①子どもサポートネット支援対象者件数:295件 ②個別支援を行った者のうち、進級・卒業・転学・単位取得などにおいて前向きな変化が見られた者の割合 93.1% ・総合相談件数 10件 個別支援件数 29件</p> <p>令和元年度実績 ①子どもサポートネット支援対象者件数361件 ②不登校に陥るおそれのある生徒で、相談員による個別支援を行った者のうち、登校に向けて前向きになった者の割合 84.0% ・総合相談件数 52件 個別支援件数 33件</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					